

第 2 回草津市中学校スクールランチ検討委員会 議事概要

本市中学生の朝食摂取状況・昼食弁当持参状況等について

- ・保護者の立場として、年度初めの通知文から特別な理由がないと注文してはいけないという受け取り方となり気軽に利用できる状況ではない。保護者の負担軽減からスクールランチを頼めるような雰囲気ではないところが、利用につながらないのではないか。
→注文の方法として、学校現場で教職員にできるだけ負担をかけないために、前日までに申し込みを受け付けるという方法で行っている。現段階でスクールランチについては特別な場合への対応という位置づけとなっており、今回の審議の中で制度自体がもう少し変わることになると、通知文についても変わってくる。
- ・委員会での討議から、スクールランチの利用者を増やしたくないのかとも受け取れる。栄養面から考えると、内容の検討は必要です。私たちは利用者を増やしていこうという位置づけで集まっていると思っていましたが、どちらでしょうか。
→もちろん増やしていくという方向で考えている。ただし、今の方法で、教職員が食べている業者弁当を家庭弁当の代わりに生徒に食べてもらうことを増やしたいとは思っていない。業者弁当がスクールランチとして、栄養面も考え、注文の方法もスムーズなものになった場合は、通知文も変わってくると思う。
- ・業者弁当をもっと中学生向けに食べやすいものに変えるということに、私たちが意見を出し合って、新たに方針を打ち出した場合、それが進む可能性があるということですね。
- ・スクールランチが始まったときは、現場はどのように動くのかという不安があった。システムとして注文漏れなどにより子どもたちが食べられなくなることを避けるために教頭が窓口となっている。このままで利用が増えると、受付やお金の受け渡しも含め課題が出てくる。大津市のやり方は、現場にとってはスムーズで分かりやすい。

近隣市のスクールランチ事業について

- ・大津市のスクールランチ事業において、利用率は 2% を想定するとありますが、この根拠は何か聞いていますか。草津市も実態は大津市と変わらないから同じような 2% という想定はできるでしょう。
→大津市の想定としては、家庭弁当を持参していない生徒の割合が約 5 パーセント弱、その中でスクールランチを希望する人の割合が 60~70 パーセントあり、価格で 400 円台であればどのくらいの利用希望があるかを掛け合わせて算出しておられるようです。
→草津市が平成 20 年に業者へ調査した中身では、草津市は 6 校ですが 1 校当たり 30 食ないと難しいとのことでした。今回、この大津市の実績で割り戻すと 1 校当たり 10 食ほどになる。スケールメリット等もあるが、もう少し業者へ、どのくらいのバランスで、経営として成り立つかという調査も行います。
- ・大津市は非常に利用者数が多いですが、利用者の特徴はあるのでしょうか。南草津などは、共働きの家庭が多く、祖父母が傍にいないので親だけで子育てをする世代が多いと思います。弁当作りが親のプレッシャーになっていて、大津市と状況が似ている気がする。
- ・大津市はスクールランチの目的として、保護者の負担の軽減を趣旨としている。保護者から見ても大津市のチラシはすごく魅力的であり、力を入れていると感じる。家庭弁当に重きをおくのであれば、ここまで力を入れる必要はない。

- ・草津市の通知文は、積極的に手を挙げるができないように感じる。このスクールランチ制度が発足した当時は、最低限のセーフティネットだったと思う。今は状況が変わってきて、セーフティネットを幅広く、質の向上も目指そうという流れになっている。
- ・大津市、守山市、彦根市を比べると、大津市の利用率が高くなっている。その理由の一つ目は値段設定の400円。コンビニで買うと400円を超えることがあり、守山市は500円でコンビニの方が安いと思える。彦根市は320円と安い、申し込みや持ち物で煩わしい面がある。大津市は前日申し込みができ、お箸が付いてくる。空き箱の回収があり、ご飯の量も選択できることが利用につながっている。学校側にとっても、未納の場合は業者が対応と至れり尽くせりの内容となっている。
 - 大津市、守山市、彦根市で生徒数の違いはありますが、大津市は1食400円、守山市は500円、彦根市は320円となっており、守山市の500円は頼みにくいと思われる。その他の部分の負担は、保護者の負担も学校の負担も教育委員会の負担も大津市の負担が一番少ない。彦根市がその次、守山市の負担が一番大きい。それに反比例して、事業費が大津市は1000万円弱、彦根市が400万円弱、守山市が27万円弱となっており、そのあたりのバランスを考えることも必要となる。
- ・大津市は便利ではあるが、子どもたちへの食育面を考えると、彦根市のようなお箸だけは持ってきて自分で洗うといった視点もあったほうが良い。業者に全て委託をすれば、学校側の負担も少なく、間違いが起りにくいという安心なところはあるが、費用が高くなってしまいかもしれない。どこまで草津市が委託料を出すのかという問題と、食育の観点から子どもたちへの影響について、どのようなやり方でスクールランチを行うかということを考える必要がある。
- ・食べ物をいただくときに、持ってきてもらったものをただ食べるということではなく、何か関わりを持ったほうが良い。
- ・給食などでも残菜が増えてくる年頃と聞く。業者に回収されて、どれだけ残したかわからないという状況は、問題はないのだろうか。
- ・残菜については、献立が付いているので、選んだものを残すことは少ないのではないかと。仕事を持つようになって、弁当を作ることが煩わしく思うこともあり、そういうときの手助けという意味では、大津市のチラシを見ていいなと思った。子どもが大きくなると、晩ご飯を食べる時間もバラバラになってくるので、お昼ご飯は私が作ったものをという気持ちはありますが、保護者の休息という意味では、大津市のスクールランチのチラシを見ると少し気持ちが和らぐように感じる。草津市のスクールランチですと、コンビニなどで買ってくる方法を選ぶ。スクールランチの趣旨について、保護者の負担軽減をと思うのか。仕事を持っていて、忙しいという保護者の声は大きくなっている。
- ・市からの税金の持ち出しが多いほど、弁当が安くなる。一市民と保護者の立場では、捉え方には違いがあるが大津市の費用は高いと思う。子どもの弁当は保護者が準備することが当たり前と思う方もいると思う。
- ・数年前にスクールランチ検討に向けた動きがあった。当時、小学校と中学校の子どもがおり、何年か後には中学校も給食になるのかなと期待をしていた。小学生の保護者には連絡はなく、中学生の子どもを通じて、検討の結果、給食ではなく現行の基本はお弁当で進めますという文書がきた。中学生の保護者としてはがっかりした。小学校へはそういった情報は伝わってこなかった。小学校の保護者の中でも期待があった。上の子が小学生しかいない保護者は、スクールランチの現状は知りません。小学校は給食なので、中学校に入ったら弁当が始まるという負担感やプレッシャーはかなりある。

- ・保護者には、利用したいという潜在的な気持ちがあるのに利用されていない現実がある。保護者が無理してでも持たせようとするところを手助けできるようなものがあれば利用する。親や生徒がスクールランチを知ること、食べたくなる、食べさせたくなるような弁当が、安いコストでできることが望ましい。利用しやすい内容にして、周知方法を工夫することが望ましい。

本市中学校スクールランチの充実について

- ・弁当業者は2社が入り、30人ほどの教職員が大津市のスクールランチと同じように、1か月のメニュー表から注文している。そうした中で、代金の払い忘れ、釣りの取り違い、弁当を取り忘れ、注文の有無の勘違い等の注文ミスがある。教職員同士ですので謝ることで許されますが、生徒の分であったら許さないの、大津市のように現場に負担のかからない方法をベースに考えることが望ましいと思う。
- ・最近では事前チケット販売という方法がある。半期分のチケットを購入し、事前にチケットを渡す。業者にとってもメリットがある。
- ・子どもたちへの周知方法の改善が必要。スクールランチを見て、おいしそうと思えるような、大津市のようなお弁当であれば、頼んでみたいと思うきっかけになる。摂取カロリーを考えた量を選択ができるのは食育の面でもいい。ランチボックスの工夫も含め、子どもたちも興味を持てる形でよいものが提供できたらいい。
- ・注文する生徒が少ないので、教頭が対応しているが、利用増を考えると不安である。
- ・学校でのスクールランチ事業の担当者としての職員配置が可能か。
→委託料の中に含めて業者に人の配置をお願いするのか、臨時職員などを雇って配置するのかといった方策はあるが、経費のかけ方の話となる。現場の負担軽減に向けては、委員会のまとめとして残していきたい。